

特集

2023年奈良県経済の概況と 県内業界団体に聞く2024年の見通し

第Ⅰ部

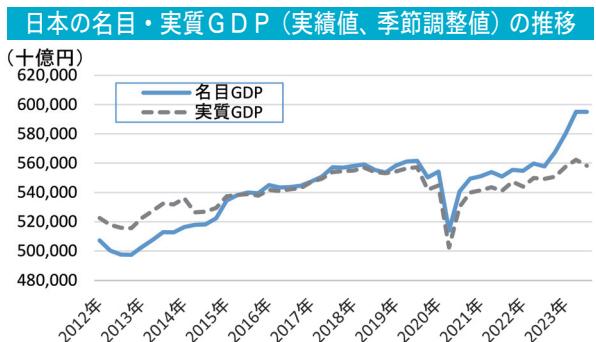
2023年奈良県経済の概況

2023年7~9月期の日本経済の実質GDP成長率は前期比▲0.7%（年率換算▲2.9%）と3四半期ぶりのマイナス成長となった。景気回復を主導してきた個人消費や設備投資の落ち込みなどによるものであり、2023年の実質GDP成長率は、底堅いインバウンド需要などの追い風によって、プラス成長を見込む（2023年10~12月期は未公表）。

2023年の奈良県経済は、コロナ禍明け後の経済活動の正常化などにより、年前半にかけて回復したが、年後半は需要回復がほぼ一巡したことで減速した。

先行きについては、緩やかに回復すると見られるが、力強さには欠けており、物価高や人材不足の深刻化など、経済の下振れリスクには引き続き注視する必要がある。

（【注】本稿は2023年12月20日時点で公開されているデータに基づき記述している。）



資料出所：内閣府 経済社会総合研究所「国民経済計算（GDP統計）」より当研究所作成



資料出所：内閣府 経済社会総合研究所「国民経済計算（GDP統計）」より当研究所作成

1 景気全般

1. 景気動向指数

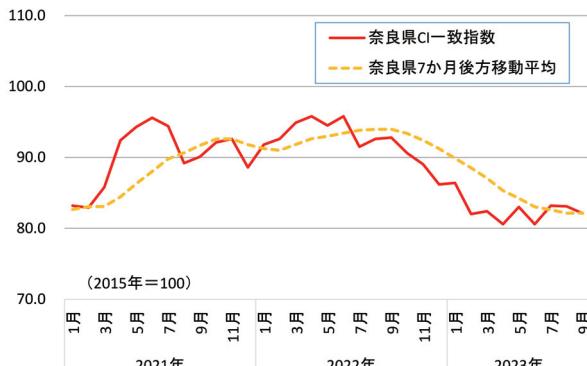
2023年の奈良県景気動向指数（2015年=100）をみると、景気と一致して動くCI一致指数は、1月（86.4）から4月（80.6）まで低下基調で推移していたが、5月（83.0）に上昇し、その後は上昇と低下を繰り返す動きとなっている。7か月後方移動平均の動きを踏まえると、景気回復の動きもGDPの動きと同様に弱まっている。物価高に賃金の伸びが追いつかず、実質賃金の低下が続くなか、原材料価格の高止まりが企業収益の重荷となっている。今後、景気回復が持続できるかは、物価動向とともに春闘での賃上げ動向にも大きく左右されるものと思われる。

奈良県景気動向指数の長期推移



資料出所：奈良県「奈良県景気動向指数」より当研究所作成

奈良県景気動向指数の直近月推移



資料出所：奈良県「奈良県景気動向指数」より当研究所作成

2. 地元企業動向調査

(1) 景況感DI

当研究所の調査によれば、2023年の県内企業の景況感DI（前期比、全産業）は、海外経済の減速懸念の広がりや原材料価格や仕入価格の高止まりなどによって、1~3月期は▲12.1と4期ぶりに悪化し、4~6月期は▲2.9と改善。7~9月期は中国経済の後退懸念や記録的な猛暑の影響等により▲16.8と悪化しており、対前年比でも、▲1.8ポイント→0.0ポイント→▲9.9ポイントと一進一退を繰り返している。

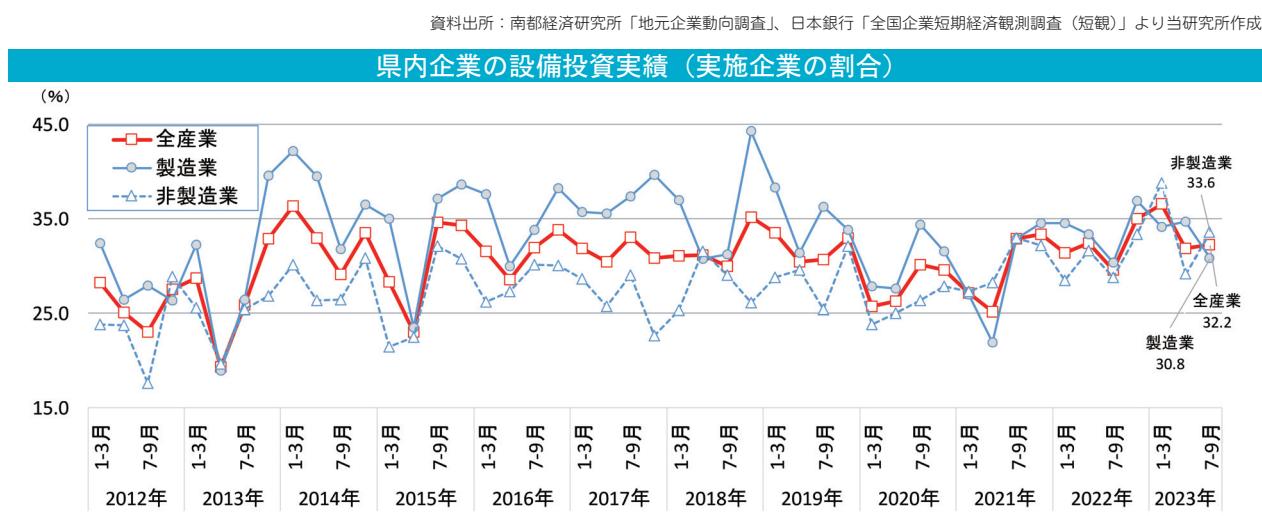
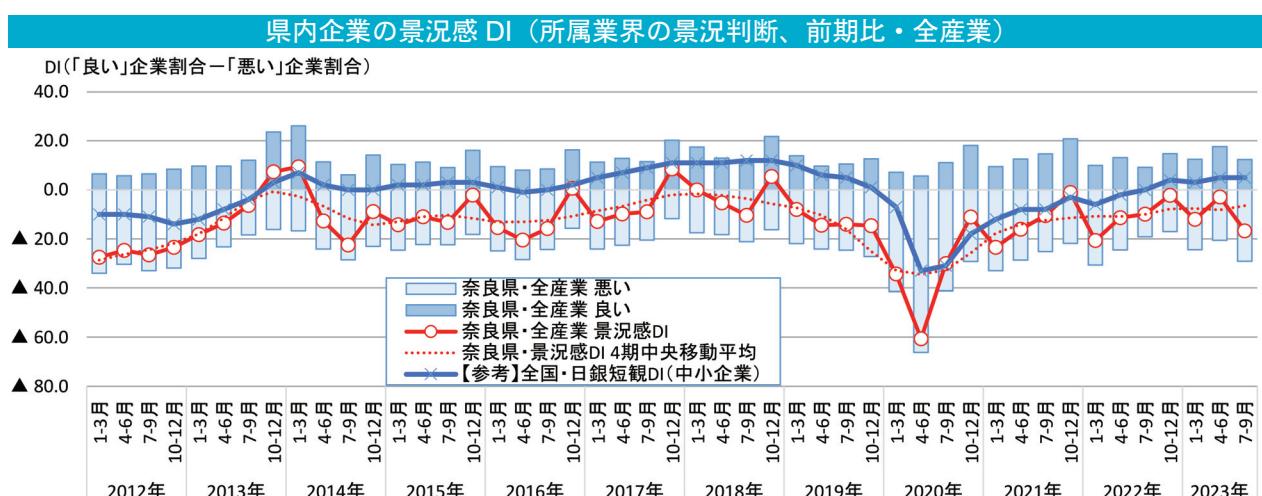
県内企業の景況感DIを4期中央移動平均した

結果は、「全国企業短期経済観測調査（日銀短観）」の全国の中小企業DIの動きとほぼ同様の動きを見せており。ただし、水準としては、奈良県のDIは全国よりもよりやや低い位置で推移していることが読み取れる。

(2) 設備投資

同じく県内企業に対し調査した設備投資実施状況の2023年（1~9月）の四半期ごとの動きは、全産業が36.5%→31.8%→32.2%となった。

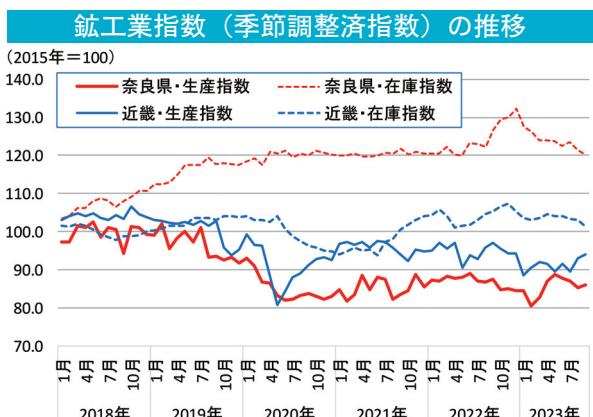
経済活動の正常化に伴い設備投資意欲に持ち直しの動きがみられ、当面は底堅い動きが続くものと思われる。



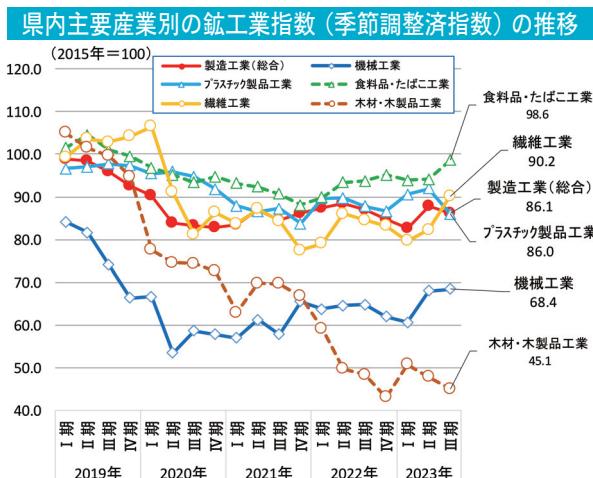
2 生産

2023年（1～9月）の奈良県鉱工業指数の動きについては、生産指数は1月の84.5（季節調整済指数、以下同じ）から9月の86.0にかけて一進一退を繰り返した。一方、在庫指数は1月の127.4から9月の120.3へと低下傾向にあり、部材の供給不足が徐々に緩和されつつあることがうかがえるが、近畿全体の動きと比べると調整が遅れている。

県内主要産業別に22年Ⅲ期から23年Ⅲ期への変化幅を見ると、製造工業（総合）は1.0ポイント低下。繊維工業（+5.6ポイント）、食料品・たばこ工業（+4.9ポイント）などで上昇、木材・木製品工業（▲3.3ポイント）で低下した。



資料出所：奈良県「奈良県鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」より当研究所作成



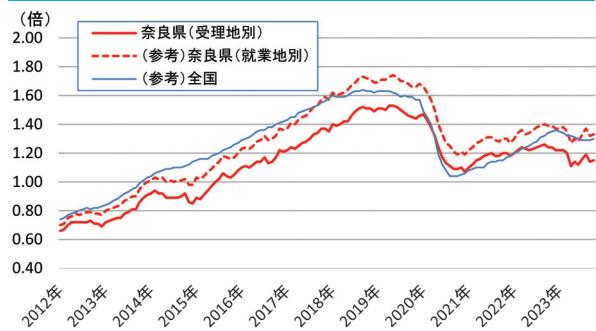
資料出所：奈良県「奈良県鉱工業指数」より当研究所作成

3 雇用

2023年（1～10月）の奈良県有効求人倍率（季節調整値、パートタイムを含む一般）の動きは、1月の1.22倍から4月には1.11倍まで低下し、その後一進一退を繰り返し、10月には1.15倍となった。

次に、職種別に2023年10月の正社員職業別有効求人倍率をみると、建設・採掘（5.36倍）が突出して高く、次いで輸送・機械運転（3.17倍）、サービス（2.43倍）と続く。1年前と比較すると、建設・採掘は0.98ポイント上昇、輸送・機械運転は0.40ポイント上昇した。

有効求人倍率（季節調整値）の推移



（注）パートタイムを含む一般。

資料出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」より当研究所作成

奈良県の職種別有効求人倍率（正社員・原数値）

職業	職業別有効求人倍率（正社員）		
	2023年10月	2022年10月	2021年10月
職業計(正社員)	0.95	0.98	0.97
建設・採掘の職業	5.36	4.38	5.11
輸送・機械運転の職業	3.17	2.77	2.30
サービスの職業	2.43	2.42	2.45
保安の職業	2.35	1.76	2.24
生産工程の職業	1.68	1.83	1.68
専門的・技術的の職業	1.60	1.66	1.70
販売の職業	1.28	1.06	1.04
農林漁業の職業	0.85	1.00	1.06
管理的の職業	0.74	1.39	0.56
運搬・清掃・包装等の職業	0.42	0.56	0.56
事務的の職業	0.33	0.32	0.30

（注）2023年10月の有効求人倍率降順に職業を並べている。

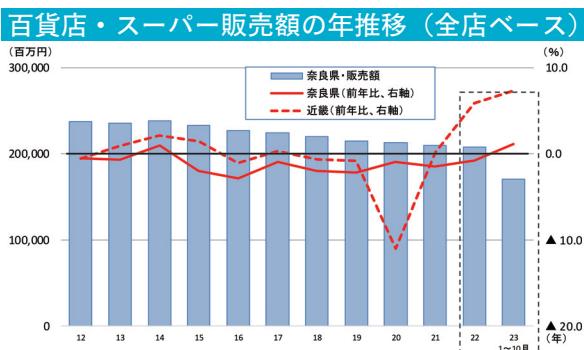
資料出所：奈良労働局「一般職業紹介状況」より当研究所作成

4 個人消費

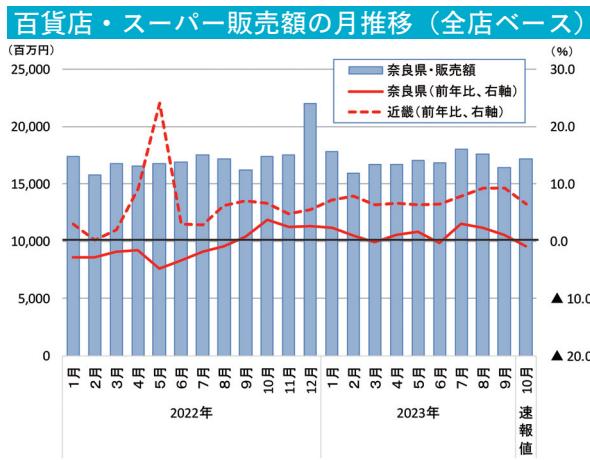
1. 百貨店・スーパー販売額

2023年（1～10月、10月は速報値）の奈良県の百貨店・スーパー販売額（全店ベース）は1,702億円で、前年比+1.1%、近畿全体（福井県を含む2府5県）でも同+7.3%と、いずれも前年同期を上回る動きとなった。

近畿全体では、経済活動の正常化に伴う国内消費の回復に加え、円安効果に後押しされたインバウンド需要や高額商品の好調な売れ行きなどから、前年を上回る動きとなった。奈良県は、大阪や京都と比べて百貨店のシェアが低いなど、インバウンド需要の効果は限定的となっており、前年比横ばい程度で推移する見通し。



資料出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況（近畿地域）」より当研究所作成



資料出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況（近畿地域）」より当研究所作成

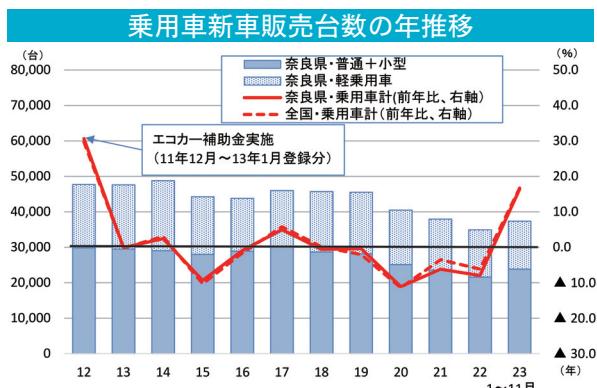
2. 乗用車新車販売台数

2023年（1～11月）の乗用車新車販売台数（軽含む）は前年比+16.4%の37,347台と、全国（同+16.7%）とほぼ同様のペースで伸長した。

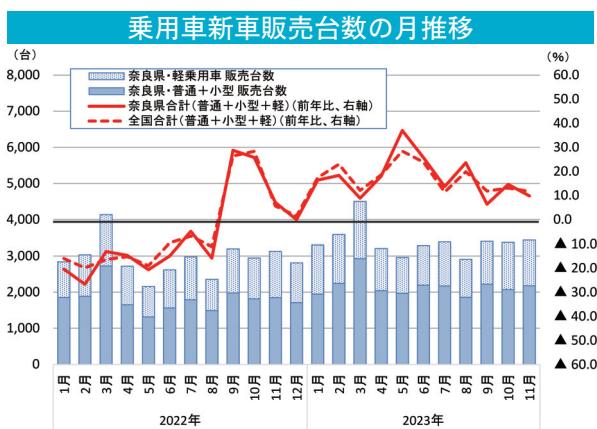
車種別に見ると、普通乗用車+小型乗用車は23,815台（同+19.6%）、軽乗用車は13,532台（同+11.0%）となった。

半導体不足の緩和によるメーカー各社の生産増加を受け、販売台数は増加傾向にあるが、コロナ前の水準までは戻っていない。

2024年は、依然として続く物価上昇を受け、買い控えを検討する消費者も存在するが、県内では車が生活に欠かせないことが多く、販売台数は堅調に推移する見通し。



資料出所：日本自動車販売協会連合会、奈良運輸支局、奈良軽自動車協会提供資料より当研究所作成



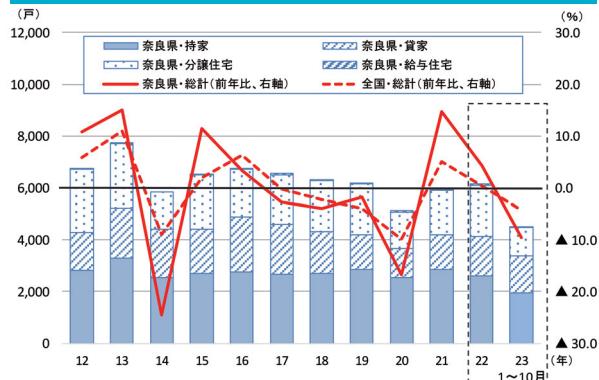
資料出所：日本自動車販売協会連合会、奈良運輸支局、奈良軽自動車協会提供資料より当研究所作成

5 住宅投資

2023年（1～10月）の新設住宅着工戸数は4,515戸で、前年比▲9.6%（全国▲4.3%）と、前年を下回るペースで推移している。5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、同+26.6%と大幅に増加したが、多くの月で前年比マイナスで推移した。種類別にみると、貸家（+7.8%）は比較的堅調であったが、持家（▲9.9%）、分譲住宅（▲25.8%）は前年比マイナスとなっており、資材価格の高騰による住宅価格の上昇などの影響を受けているものと思われる。

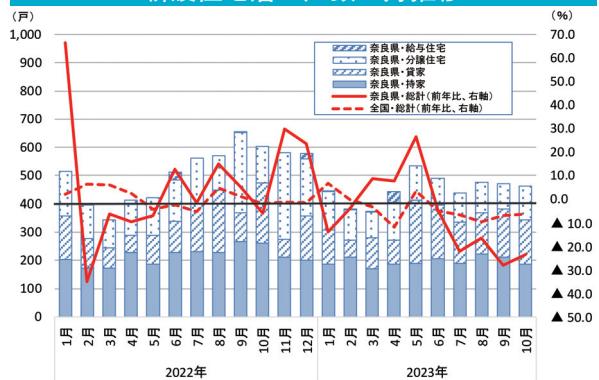
資源高や円安の影響で新設住宅の価格も高騰しているほか、中長期的な人口減少や建築現場での人手不足も問題となっており、需要の見通しは厳しいものとなっている。

新設住宅着工戸数の年推移



資料出所：国土交通省「住宅着工統計」より当研究所作成

新設住宅着工戸数の月推移



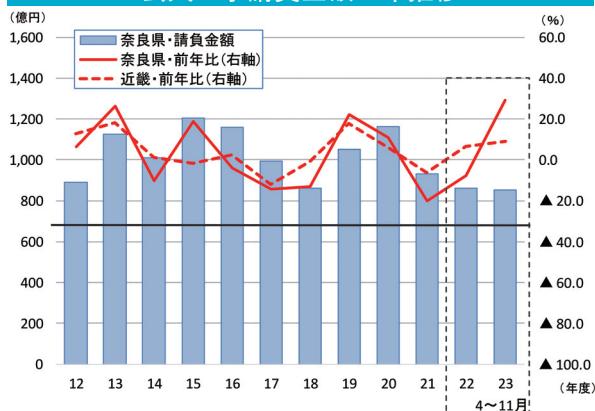
資料出所：国土交通省「住宅着工統計」より当研究所作成

6 公共投資

2023年度（4～11月）の公共工事請負金額は853億円で、前年比29.1%（近畿+8.9%）と前年を上回るペースで推移している。

県内における今年度の大型工事としては、奈良県立医科大学新キャンパス新築工事（今年度中対象額106億円、以下同じ）高原トンネル上部斜面対策工事（44億円）、一条中高一貫校校舎改築その他工事（26億円）、（仮称）御所市防災市民センター建設事業（23億円）、川上村保育園並びに義務教育学校新築工事（14億円）、国宝興福寺五重塔素屋根建設工事（12億円）などが挙げられる。

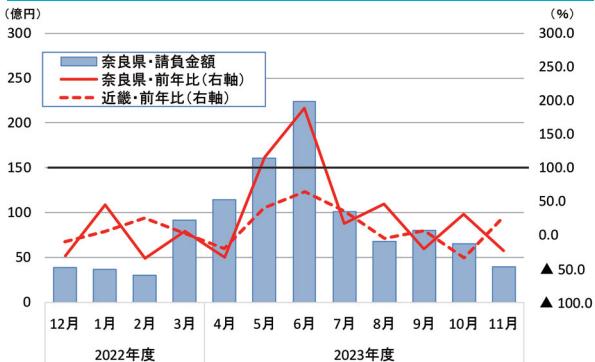
公共工事請負金額の年推移



(注) 工事場所別の保証実績。北海道建設業保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱の保証実績の合算。

資料出所：東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」より当研究所作成

公共工事請負金額の月推移



資料出所：東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」より当研究所作成

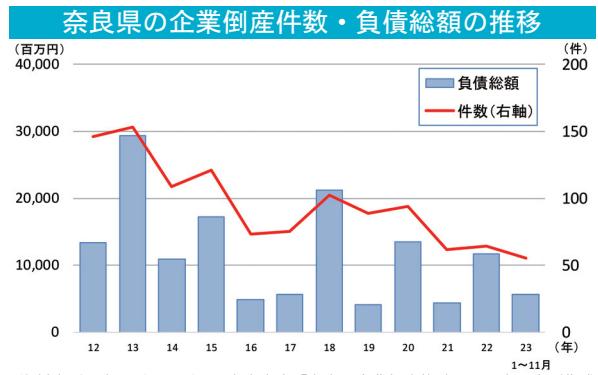
7 物価

2023年の奈良市の消費者物価指数（総合）は、10月が107.5と前年同月比で26か月連続上昇している。品目別の動きを見ると、「生鮮野菜」（前年同月比+15.8%、以下同じ）、「乳卵類」（+14.9%）、「生鮮果物」（+14.2%）、「家事用消耗品」（+13.9%）などが上昇し、「電気代」（▲19.5%）、「ガス代」（▲13.2%）などが下落した。



8 倒産

2023年（1～11月）の倒産件数は合計55件、負債総額は5,691百万円と現時点で前年を下回るペースだが、近畿圏では増加しており、コロナ禍の実質無利子・無担保融資が返済フェーズに入るなか、返済資金を捻出できない中小企業が次第に



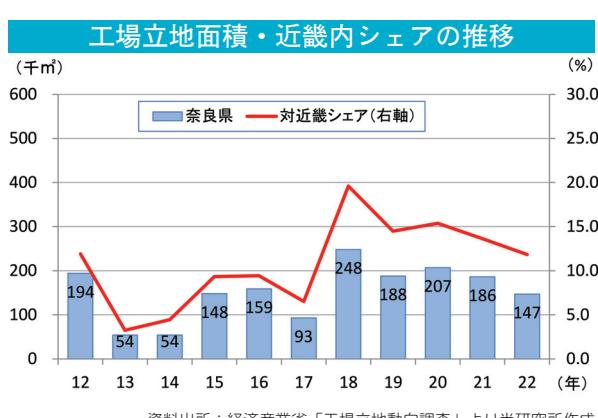
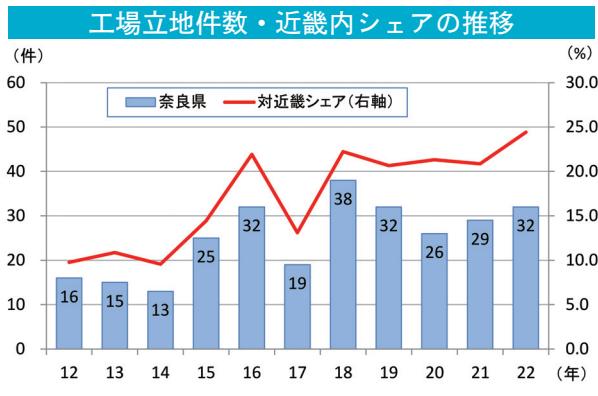
増えていると見られる。

9 工場立地

2022年の工場立地件数は32件で前年（29件）から増加、面積は147千m²と前年（186千m²）から減少した。対近畿シェアでは立地件数は上昇したが、面積は低下した。

立地件数のうち、業種別では「プラスチック製品」が7件、「金属製品」が4件、「繊維工業」、「化学」が各3件などとなった。

立地件数については、全国で9位、近畿で2位となっており、大阪、京都に近く、中京圏への移動も容易であるという良好なアクセスとそれらの都市に比べて廉価な地価によって、今後も一定程度の立地が見込まれる。

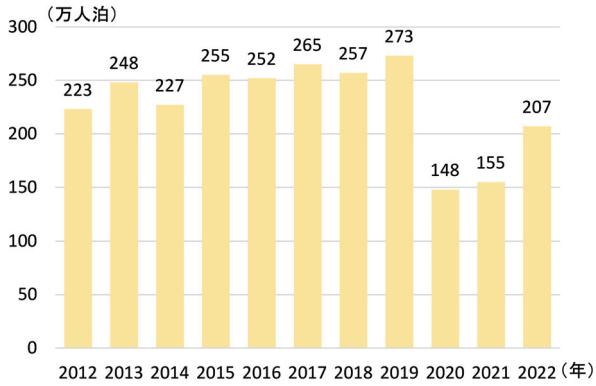


10 観光

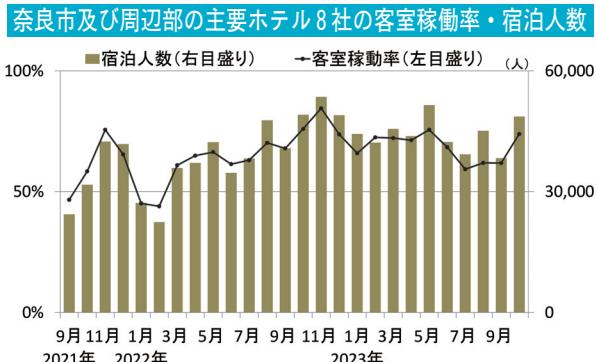
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2022年の奈良県の延べ宿泊者数は約207万人泊で前年比33.5%増加となったが、コロナ前の2019年比では24.0%の減少であった。

2023年について奈良市及び周辺部の主要ホテル8社の客室稼働率と宿泊人数は、コロナの5類感染症移行や県民割（個人旅行7月末、貸切バスによる団体旅行11月末まで継続）、修学旅行の回復などの国内要因に加え、外国人観光客が徐々に増加したこともあり、コロナ前を超える水準まで回復してきた。

奈良県延べ宿泊者数の推移



資料出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」



(注) 客室稼働率(平均)と宿泊人数(合計)

資料出所：奈良市ホテル協議会提供資料より当研究所作成

観光庁「全国観光入込客統計」によると、近隣府県と比較した奈良県における日本人の観光消費の特徴として、県外日帰り客の消費単価と宿泊客の消費額が少ないことが挙げられる。宿泊客の観光消費額は、京都府や和歌山県のような宿泊を伴う観光地と比べて少なく、コロナ前においては和歌山県の1/2程度の水準となっている。また、この傾向は足もとにおいても概ね継続している。

奈良県と近隣府県の観光消費額・消費単価(日本人・観光目的)

	観光消費単価(円/人回)				観光消費額(百万円)				
	県内		県外		県内		県外		
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	
2017年	奈良県	18,170	3,448	29,019	4,832	5,369	20,730	36,336	67,618
	滋賀県	15,901	3,446	23,344	6,438	9,606	18,258	47,720	94,973
	京都府	33,093	4,908	46,637	8,309	39,952	55,465	295,340	194,670
	兵庫県	集計中							
2021年	和歌山県	18,682	4,443	26,555	7,104	8,326	10,367	68,557	38,528
	奈良県	14,917	2,294	25,463	4,111	3,961	13,504	23,064	43,790
	滋賀県	14,727	2,561	22,543	6,114	5,469	24,659	25,369	72,035
	京都府	集計中							
2022年	兵庫県	集計中							
	和歌山県	25,430	4,036	26,798	6,046	10,692	3,690	36,783	34,330

(注) 大阪府は本統計を未導入。2017年は40、2021年31都道府県を集計済(2023年12月16日時点)

資料出所：観光庁「全国観光入込客統計」

奈良県への旅行者の都道府県別の居住地割合について、最近のデータが確認できるV-RESASで見ると、最も新しい2023年1月においては、次ページ表の通り東京都、大阪府、愛知県、奈良県の順となっている。

これを過去4年間の同月(1月)データと比較すると、各都道府県の割合は、コロナ禍の直前の2020年1月との比較では、奈良県を除いて各都道府県ともほぼ同じ水準となっている。奈良県はコロナ前まで県民の県内旅行は極めて限定的であったが、県民限定の県民割が実施されたことに加え、遠方への旅行マインド回復に時間を要したことなどから、2021年には県内旅行に占める県民の比率は7割超と非常に高くなっている。

奈良県では2022年7月に県民割の全国展開が実施されたことに加え、全国的に旅行マインドが回復したことから、県民の割合は減少した。もっ

とも 2023 年の県民の割合は 8%で、コロナ禍に比べて増加しており、県内におけるマイクロツーリズムの定着が少なからず見られる。

奈良県への旅行者の居住地割合 (各年 1 月データ: 2023 年上位順)

	2020年	2021年	2022年	2023年
東京都	17%	3%	12%	16%
大阪府	15%	10%	18%	15%
愛知県	6%	2%	7%	9%
奈良県	—	71%	22%	8%
兵庫県	6%	3%	6%	7%
神奈川県	8%	2%	6%	7%
埼玉県	6%	1%	4%	4%
千葉県	5%	1%	2%	4%
京都府	2%	2%	6%	4%
福岡県	2%	—	1%	3%
その他	25%	5%	15%	23%

(注)「—」はその他に含まれるため詳細割合が不明。

資料出所: V-RESAS、観光予報プラットフォーム推進協議会(事務局:日本観光振興協会)「奈良県の旅行者の宿泊動向」より当研究所作成(2023年12月16日に利用)

外国人観光客は、2022年10月、パッケージツアーや限定する措置の解除と査証免除措置の再開が実施され、あわせて水際対策も緩和されたことから、本格的に回復局面となった。まずは韓国、台湾などの東アジアからの観光客が中心となり、その後、欧米、東南アジアも増加した。

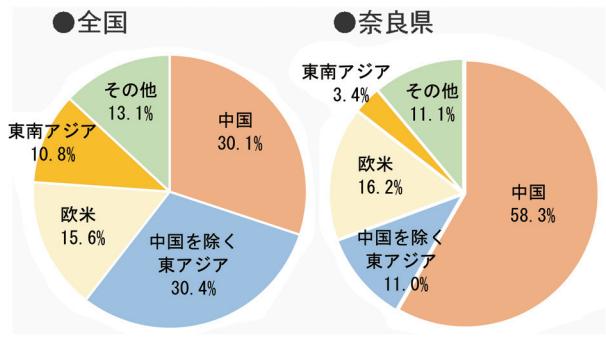
奈良県の外国人観光客の国籍を2023年1月~8月までの累計で見ると、欧米、中国を除く東アジア、中国の順となっており、全国との比較では欧米の比率が高く、中国を除く東アジアと東南アジアの比率は低くなっている。

なお、奈良県はコロナ前まで中国人の割合が約6割を占めていたが、中国では2023年8月まで団体旅行が解禁されなかったことなどから、足もとでは2割弱の水準に留まっている。

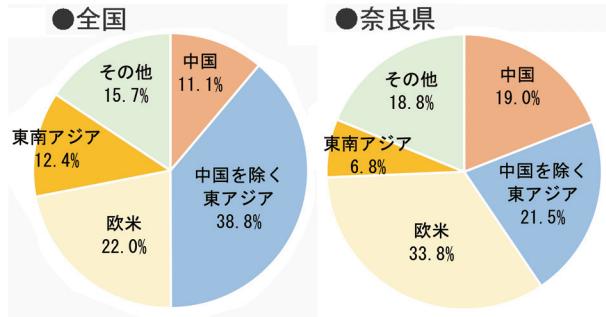
なお、奈良県における外国人観光客は奈良市内など一部への入込みに留まっており、それ以外の地域においては回復がほとんど見られない。

外国人延べ宿泊者数の国籍(出身地)比率

2019年1~12月



2023年1~8月



(注)「中国を除く東アジア: 韓国、香港、台湾」、「欧米: アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、スペイン」、「東南アジア: シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン」、「その他: インド、オーストラリア、その他」として算出。

資料出所: 観光庁「宿泊旅行統計調査」より当研究所作成

わが国の人手不足が深刻な状況となる中、国では質の向上を重視した観光への転換を後押しする施策を展開している。観光客の増加に伴う宿泊需要の回復は当面継続すると思われるが、各施設では稼働率よりもADR(平均客室単価)を重視する動きが見られるなど、官民一体となりポストコロナの新たな観光のあり方が検討されている。

第Ⅱ部

県内業界団体に聞く

2024年奈良県経済の見通し

当研究所は、2023年末に県内の業界団体の皆さまを対象とする「県内経済の見通しに関するアンケート」を実施した。本アンケートでは、各業界の2023年の業況と2024年の見通しに加え、物価高や人手不足が深刻化するなか、各業界の重要課題、関西経済における注目点・展望を伺った。

ご回答いただいた皆さま

奈良県酒造組合
奈良県靴下工業協同組合
奈良県木材協同組合連合会
奈良県プラスチック成型協同組合
一般社団法人奈良県建設業協会
奈良県貨物運送事業協同組合
奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合
以上7団体（日本標準産業分類順）

アンケート結果から、2023年は物価高などによる影響の厳しさがうかがえるが、2024年は概ね横ばいの動きとなる見通し。

	2023年業況	2024年見通し
やや好況	1団体	1団体
不変	2団体	5団体
やや不況	4団体	0団体
不況	0団体	1団体

※「好況」は回答なし

以下に各団体のご回答について取りまとめてるので、企業経営に携わる皆さまの一助としてご活用いただければ幸いである。

アンケートにご協力を賜りました業界団体の皆さんに本誌面をもって厚く御礼申し上げますとともに、本年も益々のご発展をお祈り申し上げます。

(藤岡燐太)

奈良県酒造組合

大和高田市幸町2-33

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 やや不況 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 不変 やや不況 不況

<理由>

2023年の業況を振り返ると、コロナ禍が終息しつつあり増収に転じたが、以前の実績にはほど遠く、好況とはいえない状況であった。

2024年については、コロナ禍が終息し、賃上げにより外食、国内需要が増え、円安によるインバウンド需要、輸出の増加も期待できる。

3. 業界の重要課題は？

原材料、資材などの高騰、品不足、物価高は各企業に重大な影響を与えている。円安による輸出増は、対応できる企業では見込めるが、そうでないところとの差が広がる。

人手不足は相変わらず深刻で、待遇改善などで対応できる企業は少ない。

社内業務のデジタル化は進まず、労働条件の改善もままならない。

資金不足の状況も変わりはない。

4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・大阪・関西万博への取組みの動向
- ・インバウンド需要の取り込み
- ・酒蔵ツーリズムの促進
- ・オーバーツーリズムの解決策

奈良県靴下工業協同組合

大和高田市日之出西本町 6-23 センイ会館 2 階

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不变** やや不況 不況

<理由>

2023 年の業況を振り返ると、春先から急激に為替相場が動き円安となった。この時点での商談では 135 円想定。電気・原料等全てのコストが上がり、出荷価格の値上げが追いつかなかった。

2024 年については、今の状況が大きく変わる要素はない。2024 年問題が物流にも影響する見通し。

3. 業界の重要な課題は？

分業体制が多く、外注・内職の就労者の高齢化が問題である。DX との親和性はあまりない。

4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・大阪・関西万博の成功による景気浮揚効果

奈良県木材協同組合連合会

橿原市内膳町 5-5-9

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不变** やや不況 不況

<理由>

2023 年の業況を振り返ると、資材調達価格の高騰や建築の働き手不足などから持ち家の着工が大幅に落ち込み、木材需要の減退は深刻であった。

2024 年については、政府による総合経済対策による経済再生、業界の需要回復に期待したい。

3. 業界の重要な課題は？

木材需要回復のため、脱炭素社会の実現に貢献する建築物への木材利用を積極的にアピールするとともに、住宅・非住宅分野への木材利用拡大のための取組みを継続していきたい。

人材やインフラの問題により木材生産を大幅に増やすことは難しいため、サプライチェーンの整備やストック機能の強化が課題である。

4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・公共建築物等への木材利用の状況
- ・脱炭素に向けた取組み
- ・都市部における木造・木質化建築の動向
- ・円安、物価高、エネルギー高騰への対応
- ・2025 年大阪・関西万博の開催

奈良県プラスチック成型協同組合

葛城市東室 165-6

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不变** やや不況 不況

<理由>

2023 年の業況を振り返ると、円安が進行する中で原材料など様々なコストが高止まりし、製品への価格転嫁も思うように進まない状況であった。

2024 年については、引き続き製品への価格転嫁と新商品対応を推し進めながら、慢性的な人手不足の解消に向けて外国人材等の活用を図り対応していく。中国経済の後退要因もあり、事業収益が回復するまでにはかなりの時間を要する見通し。

3. 業界の重要課題は？

重要な課題は、需要の回復状況を捉えつつ魅力ある製品創りと価格転嫁を推し進めて、事業収益の回復を図ることである。依然として慢性的な人手不足と円安状態が続く中、外国人材の獲得がより困難となってくる。そのため、キャリアアップできる魅力ある職場づくりや人権保護に則った環境改善を推進することと、業界が取り組むべき循環戦略を推進していくことが重要となる。加えて、若手経営者を中心とした技術力の高度化と、職員への技術継承を推進していくことも重要となる。

4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・円安やコスト高への対応策と環境対策
- ・事業の継続と減税に係る支援強化策
- ・新たな外国人材受入制度への対応
- ・生産工程を支える DX 人材の育成支援策

一般社団法人奈良県建設業協会

奈良市高天町 5-1

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 **不变** やや不況 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不变** やや不況 不況

<理由>

2023 年を振り返ると、5 月に新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行を受けて経済活動に関する制限が緩和されたものの、ウクライナ問題をはじめとする世界情勢の中で、依然として資機材の価格高騰は続いている。

2024 年についても、価格高騰や建設業の 2024 年問題などの影響で、まだまだ予断を許さない状況となる見通し。

3. 業界の重要課題は？

資機材価格の高騰で積算金額と実勢価格の乖離が激しく、特に民間発注の案件では収益が左右される。

4 月に適用される建設業における時間外労働の上限規制への対応に各企業が苦慮している。

4. 関西経済における注目点・展望は？

- ・円安等に伴う原材料価格高騰への対応
- ・大阪・関西万博の開催
- 観光需要の回復などの押し上げもあり、経済成長につながると見込まれる。

奈良県貨物運送事業協同組合

天理市西長柄町 186-1

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 やや好況 不変 **やや不況** 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 不変 やや不況 **不況**

<理由>

2023 年の業況を振り返ると、コロナの 5 類感染症移行に伴い景気回復に向かいつつあったが、物価高騰や運賃値上げ交渉の不発で収益は低調に留まった。

2024 年は、燃料価格の高騰が続く中、働き方改革による業務量の減少が減収につながることで、中小零細事業者の更なる業況悪化が懸念される。

3. 業界の重要な課題は？

- ①働き方改革の実施
- ②運賃交渉とドライバー確保
- ③賃上げへの取組み

4. 関西経済における注目点・展望は？

(注目点)

- ①賃上げに向けた雰囲気の醸成
- ②万博準備に伴う奈良県への経済効果
- ③インバウンドによる経済効果

(展望)

賃上げによる購買意欲の喚起が足もとの経済活性化の鍵を握る。長期的には、スタートアップ企業への支援などの施策が不可欠となる。

奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合

奈良市三条大宮町 1-12 奈良県生衛会館内

1. 2023年の貴業界の業況は？（前年比）

好況 **やや好況** 不変 やや不況 不況

2. 2024年の貴業界の見通しは？（同）

好況 やや好況 **不变** やや不況 不況

<理由>

2023 年の業況を振り返ると、国内観光客は総じて回復基調で推移した。一方で外国人観光客の回復は奈良市内など一部に限られ地域差が見られる。

2024 年は、奈良市内を中心に外国人観光客の回復は続くと見込まれるが、国内消費の低迷と海外経済の減速が業界にとってのマイナス要素となる。

3. 業界の重要な課題は？

- ①人手不足への対応（特に中山間地域など）
- ②地域内調達を高めるための流通体制の構築
- ③コロナ禍で増加した借入金の返済原資確保

4. 関西経済における注目点・展望は？

(注目点)

- ①大阪・関西万博の周辺地域への経済効果
- ②都市部から周辺地域への観光客の周遊
- ③大阪 IR の開業に向けた動向

(展望)

コロナ禍からの回復、大阪・関西万博の開催と当面の見通しは明るいが、将来に向けた安定的な成長戦略を見通せない状況にある。